

女性研究者研究活動支援事業

(実施期間：平成 24～26 年度)

実施機関：横浜国立大学（総括責任者：長谷部 勇一）

プロジェクトの概要

(1) 支援室の体制と具体的な活動内容

男女共同参画推進室にコーディネーター 2 名を配置し、研究サポーター制度や相談体制（カウンセラー 1 名の配置含む）の構築、ライフイベント中の研究者向けの情報提供などの支援方策の充実のほか、各種セミナーの開催など、意識啓発及び女性研究者の拡大に向けた取組を行う。

(2) 研究を支援する者の配置計画

ライフイベント中の女性研究者の研究補助業務を行う者として、「研究サポーター」を 10 名配置する。なお、研究サポーターには、主に女性のポストドクや大学院生を充てる。また、研究サポーター制度をキャリア形成の場として位置付け、将来、女性研究者として次世代のサポーターの支援を受けるような好循環サイクルを構築する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果 (システム改革)	実施体制	実施期間終了 後の取組の継続性・発展性
A	b	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

女性研究者の研究環境を整備する多くの取組を実施しており、「みはるかす研究員制度」など先駆的な事業も展開しており、評価できる。今後は学長のリーダーシップの下、意識改革を着実に進め、自然科学系の女性研究者の採用を積極的に進めることを期待する。

- ・ **目標達成度**：機関全体の女性研究者の採用割合は未達であるが、女性研究者在籍割合、女性研究者採用数は当初の目標を達成している。しかし、自然科学系における女性研究者の採用への取組が遅れ、採用数は目標を大きく下回った。今後、学内への意識啓発をさらに進め、自然科学系の女性教員採用に対する一層の取組を期待する。
- ・ **取組**：女性研究者の研究環境の整備、ライフイベントへの支援は計画通りに実施されており、評価できる。また、独自の取組である「みはるかす研究員制度」は、女性研究者の再チャレンジを支援する制度として評価できる。
- ・ **取組の成果（システム改革）**：女性研究者に対する学内の研究環境改善が進み、女性研究者の離職率が減少するなど、女性研究者が働きやすい環境が整備されたことは評価できる。今後は自然科学系の女性研究者を増加させるための女性限定公募等の積極的な推進など、抜本的なシステム改革への取組を期待する。
- ・ **実施体制**：理事・副学長がセンター長を務め、定期的に学長及び執行部へ報告を行い、事業推

進体制を構築したことは評価できる。今後は、学長の積極的なコミットメントにより事業を推進することを期待する。

- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：実施期間終了後も補助事業期間中と同様の体制のもとで取組を継続することは評価できる。また、女性限定公募の開始、学内経費からの予算化もなされており、今後の発展を期待する。